

Q 原子力発電所で事故が発生したら
住民はどうすればいいの?



A もし原子力発電所で事故が発生した場合には、発電所の状況や放射線の測定結果に合わせて、住民の皆様に対して屋内退避や避難などの防護措置を取るように、市や町から指示が出されます。

このような指示が出されましたら、住民の皆様は指示の内容に従って、落ち着いて行動してください。

○放射性物質が放出される前から、発電所の状況に基づき指示が出されます。

全面緊急事態では、PAZ（発電所から5km圏）の住民は放射性物質放出前に避難し、UPZ（同5～31km圏）の住民は、屋内退避をします。

発電所の状況	住民に対する指示	
	PAZ 【御前崎市、牧之原市（一部）】	UPZ 【牧之原市（PAZを除く）、掛川市、菊川市ほか7市町】
警戒事態 異常事態の発生、 またはそのおそれがある状況	要配慮者等の避難準備	
施設敷地緊急事態 放射性物質の放出等に至る 可能性がある状況	要配慮者等の避難実施 一般住民の避難準備	屋内退避の準備
全面緊急事態 放射性物質の放出等に至る 可能性が高い状況	全住民の避難	屋内退避の実施 避難・一時移転の準備

○放射性物質が放出された後、UPZの内、放射線の測定値が基準値に達した地域については、避難や一時転移を行います。

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中（令和4年7月～9月）、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、令和4年12月26日現在、3号機、4号機及び5号機については定期事業者検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局
静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス: <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス: <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

原子力だより No. 195



11月15、16日に、原子力防災センター（牧之原市坂口）において、内閣府主催の原子力災害対策本部図上演習が実施されました。

国、県、市町及び事業者等の要員66名参集し、原子力発電所の事故の進展に合わせた対応を訓練しました。

令和4年7月～9月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

令和4年7月から9月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

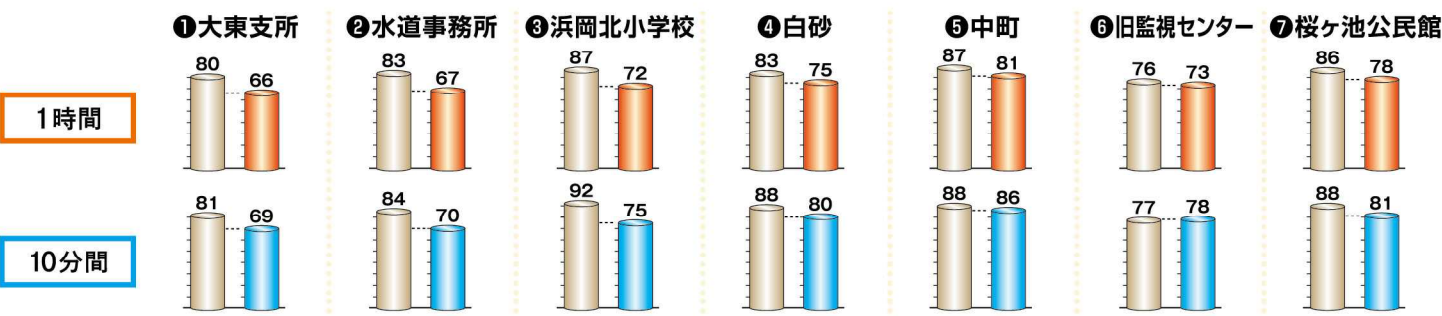
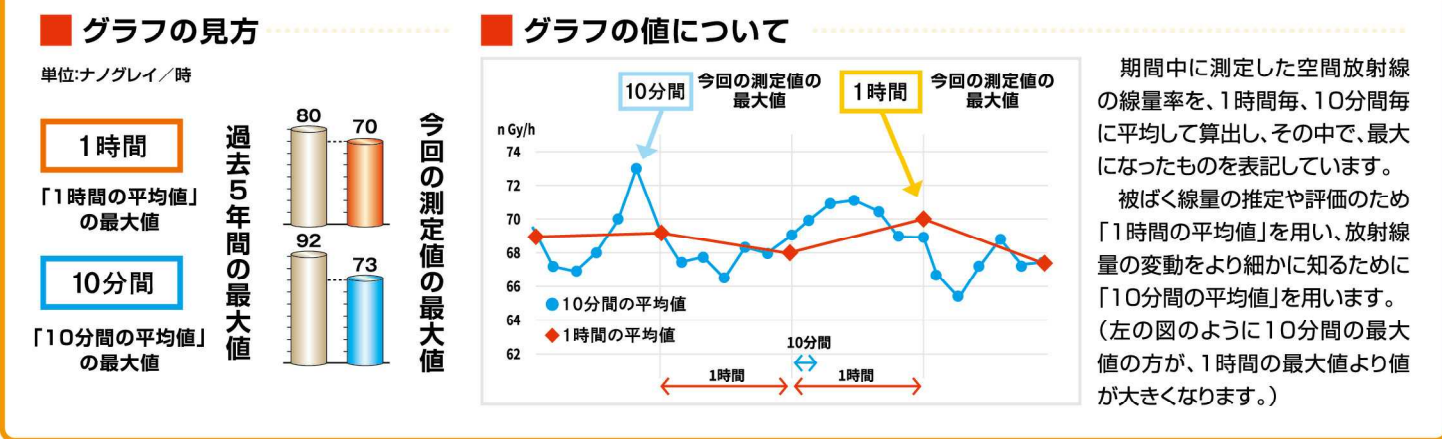
今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力 福島第一原子力発電所の事故等による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

（詳細は次ページ）

令和4年7月～9月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

空間の放射線の測定（1時間平均値 および 10分間平均値の最大値）

モニタリングステーション（14か所）において、常時、空間放射線の量を測定しています。そのうち1か所で7月に過去5年間の最大値を上回ったときがありました。原因は、降雨により大気中の自然放射性物質が地表に降下・沈着することで放射線の量が一時的に上昇したと考えられます。測定された値は、東電事故等の影響は認められず、自然放射線由来のものです。



測定結果から、自然放射線による外部被ばく線量は、年約0.29mSvと推定されます。（日本平均約0.33mSv、世界平均約0.48mSv※）
※新版 生活環境放射線（国民線量の算定）平成23年12月（原子力安全研究協会）から引用

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。令和4年7月から9月の間に測定した試料の一部※は、過去（震災前）5年間の最大値を上回りましたが、いずれも国の基準*等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力 福島第一原子力発電所の事故の影響によるものと推定しました。

※測定した9試料30検体のうち、1試料1検体（土壌1検体）
*食品衛生法に基づく基準値(参考欄参照)

代表的な試料の放射性セシウムの測定値の最大値



参考

日常生活と放射線

人工放射線被ばくの例

自然放射線の日本平均約2.1ミリシーベルト/年の内訳

宇宙から 約0.3mSv

大地から 約0.33mSv

宇宙からの吸入 約0.48mSv

食物から 約0.99mSv

胃のX線検査 約3.0mSv

私たちは、日常生活の身近のところで自然や人工のさまざまな放射線を受けて暮らしています。これらの放射線の量に比べて、今回推計した年間被ばく量約0.009ミリシーベルト/年は、とても低い量であることが分かります。

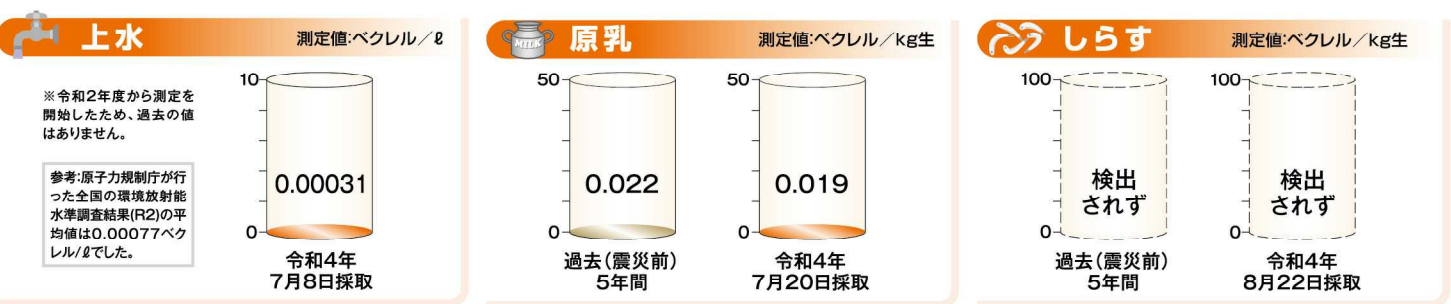
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所HPより引用して改題

参考

食品衛生法に基づく食品の放射性セシウムの基準値

食品群	基準値 (Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100

代表的な試料の放射性ストロンチウムの測定値の最大値



放射能調査に用いる単位

グレイ (Gy) …… 放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位

シーベルト (Sv) …… 吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位

ベクレル (Bq) …… 放射能の強さを表す単位

《参考》

ミリ(m) …… 1/1,000 千分の1

マイクロ(μ) …… 1/1,000,000 百万分の1

ナノ(n) …… 1/1,000,000,000 10億分の1